

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌福住 3	評価実施年月日	平成20年8月31日
評価実施構成員氏名	高橋真紀(管理者) 林竜矢 笹木弘安 畠山満里子 島村智美 藤田敏子 菅原さつき 鈴木美恵子		
記録者氏名	高橋真紀	記録年月日	平成20年9月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	MCS運営理念 1.その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします 1.心をこめた親切なサービスに努めその心を磨き続けます 1.さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします といった内容がある	○	夏祭りを実施し、近隣の方を招待したり、日々の買い物等で入居者と近所のスーパーを利用したりはしているが、交流が足りない部分もあるため、学校や保育園等へ出向いて交流を深めたい
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の朝礼にて、理念の唱和を行い意識を持つようにしている。又、ユニット目標を理念に添った内容とし、職員全員で取り組んでいる	○	今後も理念に基づいたユニット目標を設定し、具体的に取り組んでいきたい
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族へは月1回個人通信を配布し、個人の状況、ホームのことを知ってもらえるようにしている。また、運営理念の掲示を行い面会時に見てもらっている	○	地域へホームのことを知ってもらう機会は少ないため、交流の意味を含め色々な場へ出向いていきたい
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々の入居者との散歩の中で、コースを決め、同じ道を散歩することによって、顔馴染みが少しずつだが出来ており、声を掛け合っている	○	ホームへ立ち寄ってもらうような関係性はまだまだ足りないため、ホームへ立ち寄れるような催しを企画していきたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の催しには何度か参加しているが、回数が少なく、積極的な交流は出来ない	○	学校行事、保育園の行事等に参加していきたい
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームでの取り組みを地域の人々に伝える場はなかった。実習生の受け入れは行っている	○	キャラバンメイト養成研修を終えた職員もいるので、そういった内容を活用しホームのこと、認知症のことを知ってもらえる機会を作りたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価、外部評価の意味や内容については職員全員に伝えているが、個々に理解しているとは言えない。又、改善が必要な項目についても点検や、検討を行っていない</p>	○	職員全員で改善項目に取り組めるよう、ユニット会議のなかで具体的に検討していきたい
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議の中で検討事項の経過報告、行事予定、結果報告、参加者からの意見、質問等を受け取り組んでいる</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市職員との関わりや会話を持つ機会を増やすように努め、気軽に相談できる関係を作っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>制度について職員全員が理解できていない。分からない部分が多く、必要なときに御家族、入居者へ説明し利用できる体制になっていない</p>	○	全職員の理解を深められるよう、外部で行っている勉強会等へ参加し、理解を深められるようにしていきたい
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待や抑制についての内容をユニット目標に掲げ、具体的に勉強会を開き全職員が参加し、理解を深めるようにした</p>	○	今後も定期的に勉強会を開き理解を深めていきたい
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時に十分に時間をとり理解を得られるように努めている。全職員が内容を理解はしていない</p>	○	説明内容などを文章で他の職員にも伝わるようにしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年数回、ご家族様向けアンケートを行い意向などの調査を行っている。又、サービス計画書の見直しの際に個別に意向を聞いたり、センター方式を導入しアセスメントを実施して、日々の言動からどう思い、考えているのかを探っている	○	入居者の思いは、センター方式を活用し、もっとプランへ反映させられるように全職員で努めていきたい
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族への近況報告は面会時や月1回発行する個人通信等で行っている。個人通信へは暮らしの様子が分かるような写真、近況報告を載せ、ご家族へ郵送している		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で意見を出してもらい検討をしている。又、ご家族様向けアンケートの実施を行い、意見を出しやすいように努めている	○	運営推進会議だけではなく、日々の中で意見を出せる環境にしていきたい (カンファレンスへ参加してもらう等)
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回行っているユニット会議の中やコンピテンシー評価の結果を個別に伝える場では意見を聞くようにしているが、現状は把握しきれない部分多い	○	日々の業務の中や、個別に話す機会を多く作り、意見を出しやすい環境作りに努めていきたい
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事の際等は人数を多く配置する等し勤務の調整は行っている。又、欠勤等が出た場合も柔軟に対応が出来るように勤務の調整を行っている	○	入居者の状況、状態に合わせ柔軟に対応が出来るように調整していきたい
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別な理由がない限り、ユニット内で職員を固定しているが、昨年よりは離職の数は減ってきているが、職員の入れ替えが多い現状もある。異動発生時には引継時間を要し、入居者へのダメージの軽減を図っている。	○	馴染みの関係を作るためにも、離職の原因追及をしていきたい。又、職員の意欲の向上のための勉強会、研修等を行っているため、今後も継続して行っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>各職員の勤務年数や、経験年数に合わせて、グループ内研修を随時行い多くの職員が参加できるように、同じ勉強会を数回行う等の工夫をしている</p>	○	事業所外で開催されている研修会等へ各職員が参加できるような体制作りをしていきたい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者連絡会や介護支援専門員連絡会の場を活かしネットワークを構築。同業者との意見交換を頻繁に交わし業界全体の取組みを研鑽している。提携病院の協力の下、主治医や担当看護師との茶話会を開催し、日々の疑問や不安の解消の機会を設けている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>ユニット会議や日々のコミュニケーションを多くとり、意見を言えるような環境づくりに努めている</p>	○	グループ内や他事業所と交流する機会を多く持って、言い合える場を作っていきたい
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>経験や勤務年数に合わせた勉強会や研修会を行っている。又、人事考課にて向上心を持って働けるように評価を行っている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>利用前に面談をする機会を作り、願や思いを聞けるようにしている</p>	○	契約前に事前に体験入居等を行ってほしい
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>利用前に面談する機会を設け、要望、相談事を聞いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に十分な話を聞き、状況に合わせて、他事業所の支援、紹介等も受けられるようにしている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必要なことを状況に応じて見極め、家族と相談しながら対応している (面会に多く来てもらう、自宅の一時帰宅等)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	センター方式を導入し、その中で本人の思い、願いを職員全体で分かるように情報収集を行いケアに生かしている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	サービス計画を説明する際に家族の意向、要望、思いを聞くようにしている。又、暮らしの中の出来事や、状況を月1回の個人通信として郵送している	○	職員と家族とで、茶話会や、共に行える行事等を企画しコミュニケーションの場を作っていきたい
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事などへの参加のお誘いをしているが、回数が少なく本人と家族の関係作りを出来るような場は少なかった	○	本人と家族と一緒に過ごせる場の提供、企画を今後はもっと考えていきたい
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までしてきたこと、馴染みの場、馴染みの人が分からない部分も多く情報が不足している	○	本人の情報収集を密に行い、以前の関係性、暮らしを保てる様な支援をしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の状況に合わせ、食事をする時の席順やくつろぎの場作りに気を配り、日々の調整を行っている。又、行事の際にも利用者同士の関係を考慮した席順や移動方法を考え行っている	○	日々の状況をよく観察し、職員全体で把握できるようにしていきたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した入居者と、電話や手紙でのやり取りを行い、遊びに来てもらえるような状況を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を利用し、本人の思いや願いを理解し、分かるように職員全員で取り組んでいる		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し以前のことが分かるように情報収集を行っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を利用し、日々の観察を密に行い、出来ることを生かしたり、伸ばしたり出来るように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を利用し、本人の思いや願いに添った介護計画となるようカンファレンスを職員全員で行っているが、必ずしも思いや願いを反映させた介護計画とはなっていない	○	その時々本人の思いや願いを職員全体で把握し、本人が嬉しくなるような介護計画作成を職員全体で行ってほしい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その時々々の状況、状態に応じ、随時介護計画の見直しを行っている		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は行っているが、計画に添った内容を記録していなかったり、具体性に欠ける記録内容となっているため記録から計画へ反映されることは少ない	○	個別記録について、計画へ活かし、反映できるように、勉強会などを行っていききたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に合わせ、通院、送迎等を行っている。又、家族の状況、要望に応じて外出等も出来るように努めている	○	要望があれば旅行等も行っていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア、救急講習会等、ホーム内へ招いて活動を行った	○	定期的にボランティアを招いて活動が出来るようにしていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	月1回の訪問美容や、不定期でボランティアを招いての活動はしている	○	警察や、消防、学校等とも連携をし地域資源を活用できるようなことを考えていきたい
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で包括支援センターの職員に参加していただき、報告等は行っている	○	運営推進会議以外でも相談し合えるような関係作りをしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	本人、家族が要望する医療機関を利用する等し、個々に合わせた支援を行っている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的に往診があり、相談できている		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が配置されており、状況に応じて相談、対応が出来る体制作りとなっている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、ケアスタッフが出向き、状況の確認、医療機関と相談し、今後についての話し合いを持っている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看護職員、ケアスタッフ、家族と早い段階から相談し合い方針を決めている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療機関と相談し合い支援できる体制作りはしているが、マニュアル等があるわけではない	○	今後に備えて、そういった場合の対応がすぐ出来るようにマニュアル作成を検討していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	センター方式を取り入れて、本人状況のアセスメントを行っているが、ホームから別の居宅へ移ったケースがセンター方式を取り入れてからはない為、実際には行ったことがない	○	センター方式を取り入れているので、得た情報は新しい場へ行っても使用してもらえるように渡す等していききたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報の取り扱いには十分に気を配り行っている。又、日々の対応に関してもプライバシーに関することに対しては職員全員で十分に配慮することに努めている		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常生活の些細な場面でも個別選択が出来るように配慮している。食べたいものアンケートを行ったり、入浴日の選択などは個別に出来るようにしている		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活の中で買い物や散歩等、本人の要望に合わせて随時行っている。毎日同じ流れでの画一的なケアはしていない		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	日々の生活の中で本人が望むような身だしなみ、おしゃれになるように心がけているが、理容、美容は本人の望む店へ全員が行けている訳ではない	○	月1回の訪問美容の時には本人の要望を伝え、行っているが、今後は店の選択等も行えるようにしていきたい
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	配、下膳は入居者が自ら行っている。又、調理の補助的な部分も声掛けし行ってもらえるようにしている	○	入居者がもっと調理に介入できるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコ、飲酒等本人の嗜好に合わせていつでも提供できるような環境づくりをしている	○	飲酒をする方に対し、居酒屋等で飲み会等を行っていきたい
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を活用し、自らトイレへいけない方にもトイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。昼夜オムツを使用している方はいない		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日の設定は、設定をしないと混乱する入居者が数名いる為、混乱をさけるためにも曜日の設定はしているが、個人へその日の要望を聞き希望日に入浴できるようにしている	○	今後は時間帯の選択も出来るような体制作りをしていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を多くして、夜に安眠できるような環境、活動することに努めている。又、寝付けない方へは、飲み物の提供をするなどし、寝れるような状況にしていくことに努めている	○	生活リズムについて十分に配慮し、リズムを整えられるように努めたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑や花の水遣り、金魚のお世話、テーブル拭き、配、下膳等々、個々にそれぞれ役割を持っていて自主的に行っていたい。その際は危険がないように見守り、労いの声掛けは忘れずに行っている	○	楽しみごととして、外出の企画、行事の企画は入居者と一緒に計画していきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者数名はご自分でお金を所持して、買い物の際の支払いを自分でできている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	訴え、要望があった場合は、いつでも出かけられるような体制作りはしている。月に何度か外食やお茶のみに出掛けたりもしている		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	特別な外出は、ホーム側からの働きかけを積極的に行っている訳ではないので、職員からの意見が出ているが行えていないのが現状	○	入居者個々の希望にあわせて、遠足や旅行等が出来るように職員間で話し合って計画していきたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙は本人の要望に合わせ応じ、日常的に行っている		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問できるように時間帯は定めていない。ゆっくり過ごせるスペースは無い現状	○	スペースの確保は構造上難しいが、職員の対応等で、ゆっくりと過ごせる雰囲気作りは心がけていきたい
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待については、職員全員理解を深められるようにユニット目標に掲げ、勉強会を行い全員参加をした	○	今後も勉強会等を通して拘束についての理解をよりいっそう深められるようにしていきたい
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日常的に散歩や外出を行い、日中は鍵を掛けずに自由な暮らしをしてもらっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リスクマネジメントといった点で、日常的に報告書やヒヤリハット報告を行っている。又、ユニット会議の中でその月に起きた事故、ヒヤリハット報告を検討し原因、対応策についての話し合いをしている	○	リスクマネジメントの勉強会を今後行っていき、理解を深め安全に対する意識づけをしていきたい
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々のケースに合わせ、はさみ、包丁等が自由に使用できる環境づくりをしている。過剰な管理にはならないようにしている	○	今後も個々の状況に合わせ、刃物の管理方法を職員全体で十分に検討していきたい
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のため、ユニット会議の中で、原因、対策の話し合いの場を持っている。又ユニット会議の中で随時ミニ勉強会を行っている	○	リスクマネジメントの勉強会を今後も行っていき理解を深めていきたい
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	病状変化時の対応や、怪我の発生時の一般的な対応はすぐに出来るように簡単なマニュアルを目の届くところに吊り下げている。又、看護師主催の勉強会等も持っている。事故が起きた際の連絡体系マニュアルも掲示している		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を入居者と一緒に年2回程行っている		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	個々に対しケアプランへ必要なことを盛り込み、家族へ説明、同意を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の表情、様子をよく観察し、看護師と連携しながら早期発見に努めている。変化、異変があればすぐに医療機関に相談できるような体制作りをしている		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容については、ファイルへ保管し職員がすぐに確認できるようにしている。服薬介助にも十分に気を配り、全員が統一したやり方で介助を行い誤薬がないように努めている		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	必要があるケースの場合医療機関、看護師と相談して、出来るだけ自然排便が出来るよに個々がけている	○	食べ物、飲み物の工夫をもっと行っていきたい
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に合わせた口腔ケアを日常的に行っている。又、定期的に歯科往診をしてもらい、口腔内の点検をしている		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養状態が偏らないように栄養士が作成したメニューを基に調理を行っている。又、水分チェック表に工夫をし、職員全員が目で見てもすぐに摂取量が分かるようにし水分には十分に気を配っている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を毎年受けている程度で、後は日常的に手洗い、調理器具の消毒を行っている程度	○	感染防止マニュアル等を作成していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は毎日消毒、殺菌を行っていて、清潔保持を心がけている。食器類は食洗器で高温殺菌している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	靴箱が小さく、殺風景な玄関周りとなっており、家庭的ではない	○	写真、花等、装飾品を活用しきれいで家庭的にしていきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月担当を決めて、装飾品を変更し季節にあったものになっている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置等を考え、入居者に合わせ座れるようにしている	○	くつろぎのスペースがない為、くつろぎのスペース作りを考えていきたい
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が居心地よく過ごせるように馴染みの家具を置いたり、出来るようにしている	○	個々の要望に合わせ配置等も考えられるようにしていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓の開け閉めによって温度の調節はおこなっている。又、排泄物の処理に気を配り臭いが発生しないように心がけている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内の配置、フロアの椅子、テーブルの配置には気を配っているが、自立を生かした環境とはなっていない	○	自立を意識した環境について考え、できることから始めたい
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	センター方式を利用し、わかること、わからないことを見極めるようには努めているが、必ずしも活かされている状況にはなっていない	○	自立できる環境、できることを活かせる環境作りを目指していきたい
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑への水遣り、ホーム前の花畑を利用して、育てる楽しみを感じてもらえるようにしている	○	入居者、職員はもちろん、近隣者も共に楽しんでもらえるような外環境を作りたい

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

職員の意識改革、質向上のための勉強会等を随時行っている
事例研究発表会をグループ内で行い、日頃のケアの振り返り等も行っている